



今月は、「初心を忘れない」というテーマで書かせていただきました。リフレットの創業は、1998年で今から丁度12年前になります。その前に、5年間大工として、修業を積ませていただきました。その当時感じた2つの理由から、「住宅リフォーム業をやろう」と心に決めた事思い出します。

一つは、当時この東上線沿線の住宅・建築・不動産といったこの業界に対し、お客様が「相談しづらい」「馬鹿を見るのでは」「あまり良い感じがない」といった風評を耳にしたところから、建築に関しては、自分の地元でもあるこの地域のお客様のために、そんな思いはしてほしくない。そんな思いがありました。



もう一つは、学生時代、幼稚園の時から17年間住み慣れた我が家を取り壊し、新しい住みやすい家に建て直しをしてもらった時の思い出です。「確かに新しい家は住みやすい快適でした。しかし、夏休みに全然冷えないクーラーの部屋で、兄妹3人でカキ氷を食べながら宿題をした事や、停電して真っ暗になった部屋の中でロウソクを灯しながら兄妹でウキウキした事など、その家が無くなったとたん、妙に思い出されてきて、家族の思い出のたくさんあった家に対する思いも大切にしたいな」と感じました。そんな家の大切な思い出を大事にできるリフォームという仕事に魅力を感じたのを覚えています。



共にまっいごのように聞かせるお礼も承知ですが、まさにこのリフレットの創業の原点、初心です。ところが、いざ会社を立ち上げ、社員を雇い営業活動が始まると、どうしても売上も上げ、利益も出していかなければならず、初めて会社を経営させてもらう者としては、「この事業に対する思い、初心」と「経営をする」というこの間で、微妙なズレが生じてきます。



そんな考え方で、やはりうまく行かない事も多々出てきます。要するに経営者としての心と体が出来ていないのです。よって数々の失敗もありましたし、閉じかけて来てもらった、たくさんの人たちに面白くない思いをさせた時もありました。ただ、色々な場面で、人として経営者としての考え方を、お客様や社員スタッフから教えてもらったりと環境には、恵まれていたと思います。その度ごとに、何の為にこの仕事をしているのか？を考え、やはり創業の原点に立ち戻ることになるのです。



創業の原点は、今の仕事に対する心のお礼でもあり、お客様や社員スタッフに対する考え方を軌道修正していく大切な宝です。これがあればこそ、この仕事に自信をもって打ち込めるのだと思います。「初心を忘れない」ありがとうございました。

平成二十二年三月五日

多田良雄

